

令和2年度 鳥取看護専門学校組織目標

【組織ミッション】

- 1 看護師として、必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、主体的に学ぶ姿勢を持ち続ける学生を育成します。
- 2 県民の健康福祉の担い手として、県内就業を促進します。

【令和2年度 組織目標】

- 1 高校生等への学校PRを積極的に行い、新入生の定員確保を行います。
- 2 学生が主体的に学習する姿勢を育み、教育の質の向上に努力します。
- 3 県内就職者数を95%とし、県内就業の定着化を促進します。
- 4 国家試験合格率100%を目指します。
- 5 学習支援体制を強化し、在学生の退学や休学を減少します。

1 入学定員の確保

看護職員不足が解消されない中、一人でも多くの看護職員を養成するために、入学志願者の募集に力を入れ、入学定員の確保に努めます。

<実施方策>

- ①高校への個別訪問や進学説明会に参加し、学生や教員に本校への入学を積極的に働きかけます。
- ②ホームページを更新し、本校の教育の魅力を高校生、保護者、社会人の方にPRします。
- ③オープンキャンパスを実施し、参加者に本校の施設・設備、授業や演習内容を直接見学していただき、本校の良さを理解していただきます。
- ④希望者には、随時、学校内を案内し、迅速、丁寧な対応を行います。

■目標値：定員充足率 100%

【参考：入学試験受験者数と入学者数】

(単位：人)

年度	受験者数 A	受験倍率 A/定員	入学者数
H30年度	98	2.5	40
H31年度	92	2.3	40
R2年度	89	2.2	35

※推薦・社会人入試を含む

2 教育の質の向上

第4次カリキュラム(平成21年度改正)による教育を円滑に実施し、学生の主体的に考える能力を向上します。

<実施方策>

- ①第4次カリキュラムが、効果的に教授できるように、学内及び外部講師との調整を図り、計画的な月間予定表を立案します。
- ②学生が主体となって行う学習を取入れ、カリキュラムの充実・強化を図ります。
- ③基礎看護技術教育の見直しを実施し、臨床現場が期待する看護技術力の修得を目指します。
- ④臨地実習施設及び実習指導者との連携を強化し、臨地実習指導の充実を図ります。
- ⑤学校自己評価を実施し、学生の声を教育に取り入れて教育内容の改善や改革に取り組みます。
- ⑥第5次カリキュラム改正に向け、カリキュラムの検討に取り組みます。

【参考：特徴的な教育内容(具体例)】

○学生が主体となって行う学習の導入

【方法】看護の統合と実践Ⅰ・ⅡにPBL(課題解決型学習)を導入

○保健医療福祉を取り巻く幅広い知識の習得

【方法】ボランティア活動を単位取得科目として位置づけ

○人間関係の理解や人間性の醸成のための知識の習得

【方法】文学・哲学・心理学・家族論・コミュニケーション論・レクリエーション等の学習

○医療現場における看護実践能力の向上

【方法】統合実習による複数受け持ちやチーム医療、夜勤実習の体験

3 県内就職率の向上

当校の令和2年3月末の就職率は、約91%です。（進学者等を除く）

鳥取県の保健・医療・福祉の充実を図るため、県内の医療機関等の就職情報を提供すると共に進路指導相談をきめ細やかに実施します。

<実施方策>

- ①臨地実習の充実を図り、県内医療機関の魅力をアピールします。
- ②鳥取県実施の就職ガイダンスへの積極的参加を勧奨します。
- ③県内就職情報の提供や進路指導・相談をきめ細やかに実施し、県内就業の定着を図ります。
- ④県内者・県外者へ鳥取県看護職員修学資金のPRを行い、県内医療機関等への就職を勧奨します。

■目標値：県内就職率 95%以上（進学者・県外者を除く）

【参考：卒業者の就職等状況(各年度3月31日現在)】

(単位：人)

年 度	就 職						進学	その他	合計
	県 内			県 外		計			
	公 的 医療機関	民 間 医療機関	訪問看護 ステーション	公 的 医療機関	民 間 医療機関				
H29年度	32	4	1	0	0	37	1	1	39
H30年度	26	2	0	1	0	29	4	3	36
R1年度	29	3	0	1 (1)	3 (2)	36	0	4	40

※ () は、県内出身者

4 国家試験合格率の向上

科学的思考に基づく看護実践能力を備えた看護職員を地域に送り出すため、学生への教育・支援を支援し、保護者との連携を図り、受験生全員の国家試験合格を目指します。

<実施方策>

- ①入学時より国家試験への動機づけを図り、国家試験合格に対する意欲を高めます。
- ②外部模擬試験等を活用した学力診断・弱点把握を行い、卒業年次には、強化授業で補強します。
- ③教員と学生との個別面談を計画的に実施して、実力向上につなげます。
- ④臨地実習を丁寧に取組むことにより、状況設定問題に対応できる能力を身につけます。

■目標値：国家試験合格率 100%

【参考：国家試験合格状況】

年	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国合格率(%)
H30年2月	39	38	97.4	91.0
H31年2月	36	36	100	89.3
R2年2月	40	38	95	89.2

5 学習支援体制の強化

日頃から学生の様子に気を配り、身体面や精神面に不調を抱える学生等に対して、教員による定期的な面接や、スクールカウンセラーの利用促進等を図り、学校生活が円滑におくれるよう支援します。

<実施方策>

- ①学年担当教員による定期的な面接を行い、学生と教員との信頼関係を築きます。
- ②スクールカウンセラーの利用促進のため、カウンセリングの意義について講義を計画します。
- ③臨地実習中に体調不良を生じる学生のため、臨地実習施設の指導者との連携を強化します。
- ④学習成績や国家試験模擬試験結果を保護者に送付し、学習状況の報告を行います。
- ⑤保護者会を開催し、連絡を密にして、学習への前向きな姿勢が維持できるよう取組みます。